

事業報告書



Activity
Report

特定非営利活動法人
ICA文化事業協会

2022年7月～2023年6月30日



ICA文化事業協会
(ICAジャパン) <https://icajapan.org>

TEL 03-5879-9193

メール info.ica@ica-japan.org

住所 〒141-0001
東京都品川区北品川6丁目6-15アンソン御殿山II105



ICAジャパンの理念、価値、ミッション、三原則

理念

ICAジャパンは多様性を尊重し、多文化共生の世界を創る

価値

ICAジャパンは、ファシリテーション手法を通して、経済、文化、社会のバランスの取れた地域開発と、その地域を担う人材を育成する。

ミッション

ICAジャパンは、人々の叡智を尊重し、対話型合意形成によって創出された多様な価値観を基に人間開発のプロジェクトを実践する。

三原則

1.相手を尊重する 2.自然環境に配慮する 3.自己の存在を大切に

会長挨拶 青柳 陽一郎



佐藤前理事長からバトンを引き継ぎ、ICAジャパンの会長就任から1年が経ちました。

この3年間は、ICAジャパン本来の国際協力事業に対して、非常に制約が多く思うような活動が出来ませんでした。今年に入り2類から5類に移行し、ようやく国際的な活動ができるようになりました。いよいよ、ここから本格的に新体制をスタートさせるフェーズに入ると思っています。私も皆さまと共に汗をかき、会長としての役割を果たしてまいります。

ICAジャパンは、40年以上の歴史ある国際NGOとして世界から信頼され、世界的なネットワークを持つ団体です。この間、世界経済はグローバル化が進展し、新しい大企業がいくつも誕生しましたが、行きすぎたグローバル化は、格差と分断を招き、世界の人々が本当に幸せになっているのか、が問われているのではないのでしょうか。さらに、格差や貧困、女性や子ども、ジェンダー問題等、様々な課題があります。また、昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻には、国際社会が強く連携して、法による支配と平和の構築を確認していく必要があります。私達ICAジャパンは、このような課題に真正面から取り組み、平和・人権・法の支配、環境、貧困解消等を尊重するプロジェクトに取り組んでいきます。まさにSDGs活動をリードして、社会貢献活動を積極的に展開してまいります。私も佐藤前理事長の理念と理想を引き継ぎ、協会の先頭に立って、ICAジャパンの組織改革、ガバナンス改革に取り組んでいく所存です。これからの時代にふさわしい信頼されるNPOとして役員、会員、関係者の皆様と共に歩んでいきたいと思っております。今後とも皆さまの変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

School 校舎修繕事業（日本寄付財団助成金）

世界は今、教育の大切さに目覚めています。それは教育の遅れが国の発展を遅らせる原因になるからです。途上国の恵まれない家庭の子ども達は、小学校でやめてしまう事が多いです。原因は学校が遠くて歩いていけない、寮に入る事が出来ない、貧困のため子どもを働かせる。その結果、幼児教育の体験がない子ども達は進学する意欲を失い、退学するケースが多い事など、私達が事業の中で経験しています。これまでこのような事業に関わってきたICAでは、教育の推進として教師の訓練、昼食、教材、菜園、安全な環境の為の校舎の修繕をより充実させ、地域の住民が安心して幼児教育ができるように活動しています。幼児教育は目先の結果のみを期待するのではなく、生涯にわたる学習の基礎をつくり国力となります。その効果は大きいです。今回、日本寄付財団の助成支援により、コートジボワール、ケニア、インド、ペルー、グアテマラ、ウクライナ、7ヶ国の学校の修繕が完成致します。今後、メキシコ、ハイチの学校の修繕が行われます。



グアテマラの屋根の交換修理とフェンスの設立の様子

教育環境が改善され子ども達は勉強の意欲を持ちます。

ケニア 女子更衣室の設立

女子生徒が安全で尊厳のあるスペースが提供されたことは、学習環境全体の改善に大きく貢献しました。このプロジェクトが実施される前は、女子生徒は特に月経中に多くの困難や障壁に直面しており、しばしば欠席につながり、教育やスポーツへの参加に支障をきたしていました。女子更衣室が使用されるようになったことで、女子生徒たちはより快適になり、自信を持ち、力を得る事ができました。しかし、この地域では学校や地域社会で女兒が直面している課題がまだまだたくさんあります。教育へのアクセス制限、早期結婚、女兒の教育を妨げる文化的慣習は、依然として根強い問題です。今後も協力してこれらの課題に取り組み、少女たちの明るい未来の為に教育とジェンダー平等の推進に継続的に取り組んでいきます。

更衣室は藁で出来たボロボロの小屋でした



今年はインドの人口が中国を上回り、世界最多になるといわれています。インドは、毎年 2000 万人以上の子どもが生まれ出生率がとても高く 経済発展も著しく伸びています。しかし、初等教育の就学率は 97%に上るとされ、教育への意識も高くなっていますが、退学率も4割以上と高いのが現実です。学力を十分に身につけられる子どもの割合は、就学者の半数にも満たないといわれています。課題は学校設備や教師の質と数の不足、貧困、政府の腐敗など多岐にわたり、いずれも根深いものです。そして、生まれた場所、環境により勉強ができる環境が異なり、コロナ渦により教育格差が一層広がりました。山村貧困地域での教育の基盤となる幼児教育、初等教育の施設の修繕を行う事により、児童労働を防ぎ、貧困地域における教育の格差の解決の効果を期待できます。今回は主に教育の為の壁面の修繕、遊具の設置、トイレの修繕、フェンスの設置、通学の為の自転車の購入の支援を行いました。

インド プネ 農村地区の学校修繕



インド Maabar 視察ツアー

インド プネの農村地区10校の学校の校舎の修繕事業を行いました。スポンサーの日本寄付財団の参加者15人と共にスクールの視察ツアーを開催しました。農村地区では国の支援も行き届かず、校舎の老朽化、トイレの設置や修理、また遊具の設置など現地の子ども達が安全に教育の機会を受けられるよう改善されました。現地の子ども達、保護者、住民の皆さんの大歓迎のもと交流会が行われました。10月に更に7校の校舎の修繕がスタートします。



コートジボワール（ヤマイチライス）

プロボの地域、コアディオコンクロの村の経済的に困窮している親を持つ子や、両親のどちらかがいなくなっている孤児の為に、就学前の学校教育の基礎となる幼児教育を受けるチャンスを提供する為に2019年よりグベケ州の女性・家族・子ども省地域局のアドバイスとサポートを受け、ICA ジャパンの支援により、The Sainte Sato de Brobo Preschool Education Center が開設されました。フェンスがない為、毎日のようにこの施設の中庭を近くの家畜や野生動物が散見し、オートバイや自動車がこの施設を横切っていくので子ども達が安心して通園する事も、園庭で遊ぶこともできない状況でした。また、動物が歩き回るので糞尿が施設や園庭に放置され衛生的にも重大な問題となっていました。去年の10月から工事が開始され、ようやく外壁が完成しました。フェンスが完成され遊具を設置し、子ども達は毎日、安全に楽しく遊んでいます。施設は3年目に入り、生徒をよりよく指導するため、2名の教師を採用し、教室の改修にも成功しました。現在、この施設内に小学校の併設も増設できないかと検討し、更に幼児教育の質を高めていく事を目指し、生徒の数を増やしていく予定です。



ケニア マサイ地区の植林（明るい社会づくり運動）

地元のコミュニティは、牧畜経験のあるマサイ族です。彼らは牛、山羊、羊、ロバなどの家畜を飼っています。過去2年間、長引く干ばつに見舞われ、家畜、作物、野生生物が失われました。旱魃、洪水と気候変動の影響を受け、大変危険な地域となっています。そのような状況下での植林活動の取組みは大変意味があるものです。

環境教育の一環として学生と共に、さまざまな樹木の植林、適切な農業慣行、樹木と森林被覆の重要性についてトレーニングを受けながら実施されました。今後も皆様のご支援のもと、学校での植林活動を行っていきます。



マルタジャパニピースフェスティバル 平和の祈りを一つに 2023年1月

冷戦の終結のマルタ会談が行われた平和の意義あるマルタにて、平和の為の文化交流イベントをICA文化事業協会の主催で開催しました。日本から63名と文化庁の文化使の演者、マルタの現地の方207名とマルタのアーティストと共に平和の祈りを一つ文化交流が行われました。マルタのVIP要人やICAウクライナの代表も参加し盛大に行われました。ウクライナの現地の様子などのスクールレポートも行われ、平和の大切さを改めて確認し合いました。日本の子ども達とマルタの子ども達も交流参加をして、平和の授業として国連でレポートをされました。来年も引き続き、平和のチャリティーイベントを行っていきます。



文化庁の文化使の能の講演



桂サンシャイン氏の落語講演



インド プネ植林（日中友好会館） プネ マヴァルタルカの3つの村 2023年7月



インドでは、環境問題の取り組みに規制は存在するものの厳格でなく、削減目標も制定されていません。環境よりも経済発展に重点を置いていることから、企業も真剣に環境問題に取り組んでいないのが現状です。その為、住民参加の植林運動を実施し、環境保全の重要性に気付き、植林活動の継続に繋げる必要があります。

モンゴル地区 チベット經典文化保存 アジアレガシーライブラリー ALL 2023年5月



ALLとICAが提携して世界の文化、叡智を尊重し守る活動を行っていく事を目的に、モンゴル国立図書館に収蔵されているモンゴルの有形文化遺産を確実に保存し、モンゴルの文化保存能力を高め、伝統的な文化表現の保存を支援するものです。モンゴルのコミュニティにおける能力開発、文化交流、戦略的なアウトリーチプログラムを通じて、コミュニティの関与を高め、モンゴルと他国の関係を強固にし、拡大することができます。

バリ島SDGsスタディーツアー

クランビタン NO3小学校 クランビタン宮殿 2023年8月 詳しくは次回のニュースレターでお知らせ致します。

ICAジャパンのインターン生5名、一般参加者10名とバリ島でSDGsのスタディーツアーを開催しました。バリの自然のなか現地の小学生、大学生と住民と文化交流を行い、教育、平和、環境におけるSDGsを学び、実行しました。小学校では105名の生徒へ、15名の大学生と日本の遊びを紹介しました。宮殿では王族の方、住民の方50名と一緒に文化交流を行いました。参加者は、ICAのファシリテーションを通して、SDGsについて学び、普段経験できない体験をする事ができ教育、環境、平和の大切さを知る事ができたと感じていました。来年も継続して行われます。



クラウドファンディング ウクライナの子ども達の教育支援



2022年の2月にロシアによるウクライナへの侵攻が始まり、1年6カ月が経ちます。私たちの平和への思いは届かず、紛争は長引いています。そして、ウクライナの学校、教育機関の2000校以上が被害を受けて、330校の学校が完全に破壊されました。ウクライナの子どもたちが最も必要としているのは衣食住であり、次に必要なのが教育です。今、子どもたちの大半はオンラインで授業を受けています。そこで、学校を失い、故郷も離れ、厳しい環境に置かれた子どもたちが、少しでも安心と希望をもってどこからでも教育が受けられるように、現地の団体と連携し、オンライン授業で必要なタブレットを1人でも多くの子どもたちに届けるプロジェクトを実施します。

クラウドファンディングを通して、多くの方に私たちの支援活動とその目的を知っていただきたいと願っています。ウクライナにいる300人の子どもたちにタブレットを届け、質の高いオンライン学習へのアクセスを保障する活動へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

鯉のぼりでつながる平和交流

2023年の1月にウクライナの子ども達にエールを送るため、ICAでは日本の子ども達と平和の想いを込めて、子どもの成長と幸せを願うシンボルである日本の鯉のぼりに色を描きました。1月に開催されたマルタジャパンピースフェスティバルにて、マルタの子ども達とも鯉のぼりに想いを込めて色を描きました。その2匹の鯉のぼりは、ウクライナの子ども達に届けられました。そこから平和の想いをつないだ鯉のぼり交流をインド、バリでも行いました。インド、バリの子ども達も鯉のぼりに色を描きました。これからも、平和の想いを鯉のぼりにのせて子ども達と平和交流を行っていきます。2023年11月21日に行われる平和フォーラムで鯉のぼり平和交流の様子を発表します。



理事長挨拶 鈴木澄子

佐藤前理事長の協力のもと、会長や役員、会員の皆様、そして多くのボランティアや関係者の皆様のご協力を頂きまして無事に1年を迎える事ができました。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。大役の重責を果たせるか未だに自信はありませんが、この1年の活動を通して、たくさんの方々、子ども達に出会い、ICAの理念に基づいた活動を止めるわけにはいかないと痛感しています。微力ではありますが、引き続き『こたえは人々の中にある』との思いでICAの役割を果たしていきたいと思っております。今年に入り、ようやく本来のICAの活動が再開できるようになり、少しずつプロジェクトに取り組んでいます。会員、役員、そして支援して下さる関係者、ボランティアの皆様と一丸となって、世界の子ども達、そして大人も一緒に笑顔で過ごせる持続可能な地球を守っていける活動に取り組んでいきたいと思っています。今後も皆様の支援のもと、たくさんの方に愛されるICAジャパンを築いていく為に、ダン副理事長と一緒に全力で取り組んで参りますので、どうぞご指導、ご鞭撻を頂けますようお願い申し上げます。



事業概要

(1) 海外支援事業

① ヤマイチライス 教育支援事業

事業内容：コートジボワール 生徒の安全確保の為にスクールフェンス設置

実施期間：2022年8月～2023年12月

従事者数：日本側5名、現地側8名

受益者数：学生、教師、保護者、地域住民 約62名

事業地：コートジボワール ブロボ町 St.SATO de Brobo Preschool Education Centre

支援機関：株式会社ヤマイチライス 寄付金総額：500,000

② 世界8ヶ国の学校修繕事業

事業内容：教育環境の改善の為に学校修繕

実施期間：2022年11月～2023年12月

従事者数：日本側5名、現地側12名

受益者数：学生、教師、保護者、地域住民 約1250名

事業地：グアテマラ、ペルー、メキシコ、ハイチ、ウクライナ、ケニア、コートジボワール

支援機関：一般財団 日本寄付財団 助成金総額：7,482,200

③ マルタジャパンピースフェスティバル

事業内容：マルタ共和国と日本の平和国際文化交流

実施期間：2023年1月21～2023年1月25日

従事者数：日本側8名、現地側10名

受益者数：日本と現地参加者 アーティスト、ボランティア 現地の学校の生徒、教師、商工会 約320名

事業地：マルタ共和国 バレッタ

支援機関：NPO ICA文化事業協会（ICAジャパン） 寄付金総額：7,150,000

④ インドブネ市 10カ村の学校修繕事業

事業内容：教育環境の改善の為の学校修繕

実施期間：2022年2月～2023年10月

従事者数：日本側5名、現地側24名

受益者数：学生、教師、保護者、地域住民 約1460名

事業地：インド プネ市（山村地域10カ村）

支援機関：一般財団 日本寄付財団 助成金総額：7,200,000

⑤ 日中友好会館 インド植林事業

事業内容：インドにおける持続可能な環境を維持する為の植林活動

実施期間：2023年5月～2023年10月

従事者数：日本側5名、現地側8名

受益者数：子どもを含む地域住民 約120名

事業地：インド マハラシュトラ州 3カ村

支援機関：公益財団法人 日中友好会館 助成金総額：1,000,000

⑥ 明るい社会づくり運動支援活動

事業内容：ケニア マサイ地区での学校植林

実施期間：2023年4月～2023年12月

従事者数：日本側4名、現地側6名

受益者数：生徒、教師、保護者、地域住民 約86名

事業地：ケニア マサイ地区 エンコリカ中学校

支援機関：一般財団 日本寄付財団 助成金総額：322,953

⑦ アジアンレガシーライブラリー チベット文化保護事業

事業内容：モンゴルにおけるチベット文化保持と女性の雇用支援

実施期間：2023年5月～2023年12月 従事者数：日本側5名、現地側4名

受益者数：地域住民と女性、寺院 約20名 事業地：モンゴル チベット自治区

支援機関：アジアンレガシーライブラリー 寄付金総額：455,055

⑧ ウクライナ教育支援クラウドファンディング

事業内容：ウクライナの教育支援に必要なタブレット支援

実施期間：2023年1月～2024年1月 従事者数：日本側12名、現地側8名

受益者数：生徒、保護者、教師 約600名 事業地：ウクライナ 避難地区の学校

支援機関：レディーフォー 寄付金総額：499,597

(2) 国内活動

① グローバルピースシンポジウム 衆議院議員会館国際会議場 2022年12月7日

② インターンシップ活動

- ・東京都八王子市南大沢小学校 サタデースクールにて バリとアイヌの文化交流体験イベント
- ・国会見学ツアー ・バリ島SDGsセミナー

③ 金沢子ども食堂すくすくさん支援

- ・ハロウィンイベントに参加 ・株式会社ヤマイチライス様の新米支援

④ ファシリテーション研修

- ・メディカルファシリテーション講座 ・SDGs 100年アカデミーセミナー

活動写真



Global Peace Symposium 2022.12.7 国際会議場



マルタ共和国 マルタジャパンピースフェスティバル



バリ島SDGsツアー 日本文化紹介



アイヌ・バリ文化交流体験 南大沢小学校
～ 役員のご紹介 ～



バリ島SDGsツアー 日本文化紹介

会長 青柳陽一郎
副理事長 ダンヒンクルマン
理事 石井良太
名誉顧問 佐藤静代

理事長 鈴木澄子
理事 岩田護
監事 笹尾隆



特定非営利活動法人 I C A 文化事業協会 (I C A ジャパン)
〒141-0001 東京都品川区北品川6丁目6-15アンソン御殿山1105
TEL:03-5879-9193 Email: info.ica@ica-japan.org
URL: <https://icajapan.org>
